

令和6年度 第1回 恵那市地域福祉計画推進委員会 【会議録】

日時：令和7年3月24日（月） 午後1時30分～午後3時10分

場所：恵那市役所西庁舎4階 4A会議室

出席委員：加藤委員長、遠山副委員長、安部委員、吉田委員、松原委員、岩井委員、古山委員

欠席委員：伊佐地委員（保健所）、伊佐地委員（民児協）、小林委員

事務局：恵那市役所社会福祉課 課長 沼田
恵那市役所社会福祉課 課長補佐 鈴木
恵那市役所社会福祉課 係長 加藤
恵那市社会福祉協議会 地域福祉課 課長 加藤(代理：課長補佐 菅野)
恵那市社会福祉協議会 地域福祉課 課長補佐 西尾(代理：係長 鶴飼)

内容：

1. 開会
2. 委任状の交付、自己紹介
3. あいさつ
4. 議事
 - (1) 第4次恵那市地域福祉計画の進行管理について
 - (2) 重層的支援体制整備事業実施計画の進行管理について
 - (3) 地域福祉懇談会まとめの報告について
5. その他
6. 閉会

1 開会

事務局	<p>恵那市地域計画推進委員会を開会します。</p> <p>資料の確認をお願いします。本日上に次第と自殺実態プロファイル 2024、恵那市福祉センターあり方検討事業について、を配布しています。事前にお送りした福祉計画の進行管理・重層的支援体制整備事業の進行管理・地域福祉懇談会の報告書と合わせ議事を進めてまいります。</p> <p>本会議は、令和5年に作成した第4次恵那市地域福祉計画と本年から事業を開始した重層的支援体制整備事業の進捗状況のご確認をお願いするものです。また令和6年度に各13地区で実施した地域福祉懇談会のまとめについて報告をさせていただきます。</p> <p>なお、この会議は「恵那市付属は機関の会議の公開に関する要綱」に基づき、公開となっていますので、傍聴席を用意し、議事録もホームページで公開しますので、ご了承ください。</p> <p>欠席者の報告： 委員3名欠席・事務局2名欠席代理出席</p>
-----	---

2 委任状の交付、自己紹介

事務局	今回、各組織での委員交代があり2名の方に新たに加わっていただきましたので、委嘱状の交付をさせていただきます。(福祉事務所長より交付) 名簿の順に自己紹介をお願いします。(略)
-----	--

3 あいさつ

事務局	福祉事務所長兼健康福祉部次長からごあいさつ申し上げます。
事務局(次長)	忙しい中にお集まりいただきありがとうございます。本日は令和5年度より進めている第4次恵那市地域福祉計画につきまして事務局から進行状況をご報告いたします。年度1回の会議ではありますが着実に進めているかどうか皆様の目でチェックをいただきたいと思っております。本日は忌憚のないご意見を賜りますようよろしくお願いいたします。
事務局	本日は会議の終了を、午後3時を目標に進めていきたいと思っております。ご協力をお願いします。 では以降の議事進行を委員長にお願いします。

4 (1) 第4次地域福祉計画の進捗状況について

委員長	お忙しい中、第1回恵那市地域福祉計画推進委員会にお集まりいただきありがとうございます。皆様のご協力をお願いします。 これより議事を進めてまいります。 本日は3つの議題があります。まずは第4次恵那市地域福祉計画の進捗状況について事務局からの説明をお願いします。
事務局	それでは資料をご覧ください。3つの項目に分かれております。 恵那市地域福祉計画の進行管理シート、自殺対策、再犯防止に分かれておりますので順番に進めさせていただきます。 まずは地域福祉計画についてです。 令和5年の3月に策定させていただき令和9年の3月まで、5年間の計画を取りまとめたものです。5年の期間中には制度が変わったり、仕組みが変わったりしていくこともありますが、この計画を我々の基本の施策として進めさせていただいております。 すべて読み上げますと時間が足りませんので、評価の内できていないもの、特筆すべき事項を中心にご説明させていただき、後ほど皆さんからご質問やご指摘をいただければ、と思っております。 1 ページ目 地域の関係づくり、住民同士の交流機会の確保について ①の近所づきあいや地域での交流促進について 1項目「C」が付いています。6年度としては山岡で「さとやま食堂」を開催し、お年寄り子どもたちとの交流をいたしました。居場所の設置までは至っていない

	<p>ため「C」としております。</p> <p>子ども居場所としては、放課後子ども教室や放課後児童クラブなどニーズは非常に多い事業です。</p> <p>重点項目の拠点の整備では、社協さんを中心にサロン活動などを展開いただき、現在 120 のサロンが活動をしておられます。</p> <p>②地域活動への参加促進・活性化について</p> <p>自治会の加入促進については、促進活動は実施していますが、特に市街地での自治会未加入や脱退が増えているとのこと。何とか維持をしていただいているところもあるようです。今年度は「自治会のあり方検討」という事業を始めており、構成は職員だけですが、運営支援、加入促進などを充実していくという議論になっており、来年度もこの組織は継続する予定とのこと。</p> <p>地域福祉懇談会の充実では、後ほど社協さんからご報告をいただきますが、13 地区すべての地域で実施をしています。グループワークなどをして地域独自の課題を出していただき、皆さんで議論をしていただきました。</p>
事務局（課長）	<p>本日まで出席の委員もご参加をいただいている方もあります。これは社協さん主体で開催いただいているのですが、別に地域福祉ケア会議という高齢部門が主体の会議を 13 地区で開催していました。ご参加いただくメンバーは社協さんや地域の皆さん、民生委員さんなど 7～8 割の人が同じ構成となっていたため、今年度から合同開催という形をとり、会議の効率化を図っておりますので、補足させていただきます。</p>
事務局	<p>7 番は「ふくしの日」という新たな取り組みを行いました。社協さんより報告いただきます。</p>
社会福祉協議会	<p>市内の社会福祉事業所の連絡会を 12 月に発足し、市内の社会福祉法人さんの顔の見える関係づくりという事業を始めました。その一環として「恵那ふくしの日」として法人さんだけでなく市内の事業所にも参画していただいた。社協の社会福祉大会と時期は一体的な開催がしたいと考えています。</p>
事務局	<p>2. 地域での見守り・助け合いの仕組みづくりについて</p> <p>「安心カードの作成」に「B」の評価がついております。これは南部で進んでいる安心カードの作成と合わせて、国指導による個別避難計画の策定が涼められているところですが、中心部ではまだ始まったばかりで、周辺部と比べ策定に手こずっている感があります。引き続き自治会や民生委員さんのご協力を得て進めていかなければならない事業となっています。</p> <p>関係機関が連携した見守りの推進では、民生委員さんをはじめ地域の役員さんや自治会によっては福祉委員さんを任命して見守り活動をしていただいている状況です。</p> <p>4. 支えあい活動の充実は 重点項目にもなっており、地域のボランティアの拠点づくりを恵那市生活支援協議体の主催によって支えあい活動交流会を開催し 90 名の</p>

	<p>参加がありました。実践を学んでいただく会を高齡福祉課が開催しました。</p> <p>5番には「さりげない見守り」とありますが、地域の見守りは民生委員さんが月に2回訪問活動をしていただいておりますが、自治会で福祉委員を設けて見守りのチャンネルを少しでも多くして見守りをしていただいております。ただ、そういったお役目のある方だけでなく一般市民を含めた見守り活動には至っていないため評価を「C」としております。</p> <p>ここで今までのところについてご意見などありましたらご発言をお願いいたします。</p>
委員	<p>避難行動要支援者のところで、手上げ方式で調査をしておられると思いますが、中には未回答の人がある程度居るとの認識です、いかにフォローできたかが評価されていないと思います。調査は実施したということで「A」とはなっているが、フィードバックまでできての評価、アウトカムまでできての評価が必要と思う。</p> <p>また、避難の支援者が民生委員さんにゆだねられている傾向があり、民生委員さんはスーパーマンではないので、この辺りも地域に間違った認識があると東日本の震災の時のように民生委員さんまでもが命を落とすことになりかねない。この辺りの注意やご指導を合わせてお願いしたい。じゃあ誰が？ということになるとは思うが、地域で考えてもらう必要がある。その地域で考えるということがとても大切。</p>
事務局（課長）	<p>地域では逃げ遅れやすい方々があり、市ではそういった方々を避難行動要支援者という位置づけをしている。要介護3以上・身体障害2級以上・難病指定を受けておられる方を市としてはリストアップをしており、市内で6,730人おられます。そういった方々を地域で支えていただかなければならないので、自治会長・民生委員・消防団に名簿を提供してよいか？という聞き取りを昨年4月から取り組んでいます。対象の6,730人の内約68%の方からお手紙が帰ってきており、提供に同意された方が52.6%で全体の約半数となっている。手帳所持の方の中には精神の障がいをお持ちの方など、プライバシーについての懸念がおありのようです。ただ、前年度も同じお手紙を送って協力依頼をしているが、今年度は10%ぐらい同意された方が増えている。徐々に必要性を当事者や地域の人が理解していただけていると思われる。</p> <p>これらの同意は平時の提供であります。有事の時は法律で提供ができることになっています。平時からこういった支援の必要性を地域で共有し、役立てていただきたいと思います。また、民生委員さんが支援の途中で被災され被害を受けられたという報告がある中で、民生委員さんもまずは避難をしていただく。余力があった時に支援をしていただくという意識統一を図るようにしております。</p>
委員	<p>民生委員だった当時、福祉協力員が機能していない地区もあった。4年掛かって何とか機能するように作っていただいた。</p> <p>民生児童委員は6人居るが。主任児童委員が2名あるので実質4名。この人数では到底みることはできないのが現状。3人の孤独死が発生してしまった。とても目が届かない。こういう事があって福祉協力員の必要性が理解いただけて、各地区に</p>

	<p>作っていただいた。</p> <p>先ほど来の支援の必要な方のリストアップは非常に大切。20年で人口は30%も減ってしまった地区もある。だからこそ福祉委員の意義は大きいですが、機能していない地区がまだまだある。</p>
事務局	<p>目標2 思いやりの心を育てるひとづくりについて</p> <p>①福祉に関する啓発や教育の推進</p> <p>子どもに対して福祉の体験や啓発をしている事柄が上がっています。手話の講座を小学校でやっていただいたり、補助金を出して障がい者の理解について学んでいただいている。理解教育の推進校が全校でないのは残念だが、指定を受けた学校へ補助金を出している。とある中学校では岐阜の車椅子バスケットボールのチームに来ていただいて、生徒と一緒にプレーをするなど体験を通じて障がい者理解の推進を行っています。</p> <p>ボランティア・市民活動の充実について</p> <p>恵那市は、学校のほうもボランティア活動を奨励してくださる風潮で、色々な行事やイベントに中学生がボランティアで参加してもらっています。</p> <p>ボランティア養成には社協さんにも支援いただいています。</p>
社会福祉協議会	<p>ボランティア養成講座など社協でも取り組んでいます。今力を入れているのは傾聴のボランティアの講座を開催しています。高齢者の在宅支援やサロン活動を通じて地域の中で安心して暮らせることが大切と考えています。話の聞き役や相談を聞いていただくことが求められます。来年度は民生委員さんにも一緒に講座に参加いただいで一緒にスキルアップをしていただけたら…と考えています。</p>
事務局	<p>目標3 安心して住み続けられるまちづくり</p> <p>①相談支援体制の充実</p> <p>現在社会福祉課には福祉総合相談の看板を掲げあらゆる相談の窓口として体制を作っております。また、今年度から重層的支援体制整備事業を開始いたしました。これについては後ほど別に説明をさせていただきますが、東農では初の取り組み県下でも数か所しか取り組んでいない事業に着手しました。</p> <p>4番の教育相談員による訪問相談の充実については、訪問による相談が実施できていないということで「B」がついております。教育委員会では専門の相談員を配置して教育発達支援センターでの相談を実施していますが、訪問までは実施できていないため「B」としています。</p> <p>4ページをご覧ください。</p> <p>虐待・DVの早期発見では、一刻を争う案件もあります。今年度より「子ども家庭センター」を設置し保健師なども増強しております。</p> <p>7番が「B」評価となっておりますが、アウトリーチ支援というのは相談に来る人を待つのではなく、こちらから該当しそうな人のところへ出向いていく形の支援となります。まだ、潜在的な支援の必要な方がまだいらっしゃると思われます。引きつづき掘り起こしをしていきたいと思ひます。</p>

②多様な生活課題への対応

生活困窮や住宅確保の支援なども行っておまして、中段の3番ではフードバンク事業を推進しております。社協さんを中心に市内のお店から賞味期限が間近な食品を提供していただいて、生活困窮や子育て世帯への配布し少しでも食費の足しにさせていただこうと事業を行っております。

中段あたりは、情報バリアフリーの推進ということで重点項目になっておりますが、昨今いろいろな媒体がたくさんあります。広報などの紙媒体に対しては音声による読み上げ機能を持たせた2次元バーコードを読んでいただくと音声読み上げができる仕組み、従来の音訳ボランティアなど、文字の情報を音でお伝えする取り組みを実施しております。

下段のほうには、質の高いサービスの提供についての記載があります。

2番では福祉連携会議の実施とあり、重要項目になっている福祉連携会議では、我々だけでは何ともならない事案について、アドバイザーの先生を派遣いただいて助言を受け解決に向けて取り組んでいます。その世帯では、高齢者の問題があり、家族には障がい者が居り、貧困も引きこもりも絡んでいる。そんな複合課題のあるご家庭について対応を検討し支援につなげる取り組みをしています。社協さん・子育て・包括支援・生活保護などいろいろな課が集まって支援をする仕組みです。

続いて5ページです。

色々な民間の事業所のケアマネージャーさんと民生委員さん、市の職員が集まり合同連絡会を開催しました。民生委員さんの持っておられる情報とケアマネさんの情報がなかなか結び付いていないという課題がありました。地区の民生委員さんとその地域に関わっておられるケアマネさんが情報交換をし、今後のつながりができたと思われまます。昨今の孤独死や貧困の問題など情報のチャンネルが1つ増えることで、救えなかったところが救えるようになることもありますので有効な研修会でありました。日頃の見守りがとても大切。

それから、中央あたりに「D」という評価があります。その他との評価ですが、福祉サービスの利用にあたっての苦情受付の仕組みとして、シルバー人材センターに依頼をして、介護相談員として福祉事業所を定期的に訪問してもらい、職員には言いにくい苦情などを聞き取っていた事業です。コロナの時にこの事業はストップしました。最近福祉の事業所が多くなり、また、サービスの質やQOLも向上されてきていることもあり、調査員を派遣するのではなく国保連や社協の相談窓口を利用させていただく方式に変えたとのことで、業務がなくなってしまったことから「D」（その他）としております。

3. 安心で暮らしやすいまちづくり では防災関連の項目があります。要支援者の避難訓練や避難所における配慮、災害ボランティアセンターの設置などの事柄が書かれておりますが、先ほどのご指摘のように、アウトプットはできているものの果たして有事に機能するのかという検証はできていないように感じました。

後から出てきますが、福祉センターを改修・建て替えという話題が出てまいります。こういった施設は福祉避難所に指定がされておりますので、大勢の方がたとえば御所の前の福祉センターに避難してこられた時、果たして機能するのかという疑問を感じます。引きつづき検討が必要かと思えます。

6 ページに進みます。

消費者被害についてですが、警察の方とお話する機会がありましたが、恵那管内でも詐欺が多いとのこと被害もかなり出ているそうです。民生委員さんの高齢福祉部会では恵那警察の署員さんを講師に研修会を実施されました。実際に起きた詐欺被害の事例をお話いただき、啓発してもらうようお願いされました。また、各地域で防犯パトロールを実施していただいておりますが、引き続きお願いをするものです。

③移動手段については、各地域で実施した福祉合同会議でたくさんのご意見が出されました。移動手段の無いお年寄りが買い物難民となっており、高齢化が進んで免許証を返納される方が増え、移動手段の確保が課題となっています。

ただ、前日に予約をしないとコミュニティバスが来てくれなかったものが、当日でも良くなったなど、少しずつ改善はされています。

目標 4 生活と活動を支える体制づくり

地域での基盤組織づくりでは、自治会の加入率低下が課題となっています。この課題をしっかりとやっていかないと地域が弱くなってしまいます。何でもかんでも行政が行っていく訳には行かないので、自治会のあり方検討を今年度始めたところです。来年度も引き続き検討委員会を実施していくとのことです。

地区での福祉のまちづくりについては、福祉懇談会に出席させていただきましたけれど、それぞれの町に宝が一杯ある。今後それらをどうやって守っていくところが課題となっています。後ほど社協さんのほうから地域福祉懇談会について説明があります。

総合的な福祉のまちづくりでは、SDGs だれひとり取り残さないというところを目標にしております。これがこの後で説明をさせていただき重層的支援体制整備事業に関わってくるものです。これもより一層の充実を図ってまいります。

委員長

ただいま事務局のほうから地域福祉計画の実施計画について説明がありました。資料的にはかなりボリュームがありますが、全部で 69 の事業をチェックされているという事で、分かりにくかった箇所もあったかと思いますが、これらについてご質問がありました発言願います。

委員

5/6 ページ 4 番 避難所における配慮は非常に大切。女性目線とかパーテーションとか環境面について考えられているが、危惧されるのは震災関連死について、能登半島地震でも発生しているし、熊本地震では地震で亡くなった方は 50 人でその後亡くなった方が 250 名ほどおられます。避難所や仮設住宅について考えていただきたい。特に震災関連死の撲滅を考えてほしい。無くそうと思えば無くせるものなので、SDGs の発想にもなる。さらにスフィア基準という国際的な人道の基準で、能登半島地震後でやっと国のほうも動き始めた。県もこのスフィア基準について動き始めている。来年度になると恵那市にも降りてくる。この先駆けという事でスフィア基準の準拠を考えていただくとよいと思います。

委員	<p>なかなか多岐にわたる話でした。ここだけでは解決しない、例えば交通政策課が行っている循環バスだとかデマンドバスであると私もできる限り橋渡しをしているつもりではありますが、色々なところからご意見いただきながら徐々に改善していけたらと思います。今回、福祉施設の見直しをされるようですけど、ぜひ使いやすい物に…管理をしている部署とも連携をとって使いやすいものにしていただけたら良いと思います。大変なことかもしれませんが、人命を大事にできるような優しい行政を運営していただけたらと思います。</p>
委員	<p>実際に業務をしていますと、外国の方が多くなってきた。困窮とかお困りではないにしても言葉の面で心配。企業でどんどん雇われておられるのかと思いますが、日本語が全くしゃべれなくて大丈夫かなと思います。病院でもなかなか通じなくて、通訳の方がいない、アプリもありますなかなかのを得ない状況。こういう外国人の方は、福祉の視野に入っているのか… と思った次第です。</p>
事務局	<p>この計画の中に「外国人」という言葉はどこにも入っていないと思います。市役所の窓口にも外国の方が来られます。委員がおっしゃる通り、大事なことが伝わらないという問題があります。</p> <p>恵那市国際交流協会という組織があり事務局に職員さんがおられます。他の日本語の堪能な外国人の方と一緒に日本語教室を開催しておられますが、如何せん追いついていないのが現状です。</p>
委員長	<p>私のところでもミャンマーの方に4名来ていただいています。先般「胸がえらい」との訴えがあり、なかなか通じなかった。携帯のアプリでやっと先生と意思疎通ができて処方箋を出してもらったことがありました。</p> <p>今、介護の事業所は外国の方を雇うところが増えていきますので、こういった対策も計画のほうに入れてもらえるとよいと思います。</p> <p>うちの自治会も高齢世帯・独居・空き家が目立ってきている。また、地域にアパートができて何人か住んでみえますが、自治会には入ってもらえない。人口的には増えたとしても自治会の衰退は止まらない。住んでいる人の人数や世帯の情報も入らない。今問題になっている「人と人のつながり」が難しくなっている。これらの対策をぜひお願いしたい。</p>
委員	<p>まったくその通りで、周辺部はそれほどでもないが自治会を脱退する人が出てきた。いろいろな問題が起きている。実際に空き家に新しい人が住んでいるようだが誰かもわからない。大晦日なのに玄関に配達荷物が置きっぱなし、車は止まっている。鍵が掛かかっていて応答がない。中で倒れているのではという事で警察を呼んでドアを破ってもらう寸前で、どうも年末に救急車で運ばれて入院しているという情報が入った。こんなことが実際に起きています。普段でも（未加入の人は）ごみをどこに捨てるのか？という問題が出ています。</p>

委員長	では次の説明をお願いします。
事務局	<p>自殺対策の資料をご覧ください。プロファイルという分析結果が出ています。2019年～2023年の分析で恵那市では47名の方が自殺しておられます。年10人弱の方がお亡くなりです。</p> <p>全国と比べて突出しているのが男性の30歳台と女性の80歳以上の方が多くなっています。これを踏まえて自殺対策の施策を見ていきたいと思えます。</p> <p>貧困によって自殺をされるということがあり非常に悲しいことでもあります。これは行政が何とかできるのではないかと思う次第です。</p> <p>それから、若者が自ら命を絶つという事が非常に痛ましいことで、少子化という現状で10代の子がなくなるのはとても痛ましい。3/6ページをご覧ください。今、学校では「SOSの出し方」という取り組みを実施しております。昨年、西中・東中のこの授業にお手伝いで行かせていただきましたが、講師からは悩んでいる人は自分からなかなか相談できないので、周りのみんなが気付いてあげられるように…という内容でした。</p> <p>その下のいじめについては、私の聞いている所では「うちの学校いじめはありません」と言われる学校はありません。大なり小なり何らかの事案はありますので、その対策も大変重要です。</p> <p>4/6ページに行きますと、子どもの居場所がとても大切だということを分析しております。DVの対応や特別支援学級の支援を引き続きやっていくことが書かれております。居場所づくりの大切さ、不登校、引きこもりの対策として、学校は無理でも家から出てそういう場所に行けるよう取り組んでおります。</p> <p>下段には高齢者の孤独対策について書かれています。少しでも外へ出て、いろんな人と出会ってお話ができるようにサロン活動など取り組んでおります。延いては自殺防止に繋がるよう、孤立を防いでいくような取り組みを行っているところです。</p> <p>この辺りは、社協さんには色々な取り組みをさせていただいております。地域でもお年寄りを外に出てきてもらう取り組みをさせていただいております。こういう取り組みが孤独防止・自殺防止に繋がるものと考えております。</p> <p>5/6ページには、介護者の方の孤立についても対策が重要ということで、認知症介護者の方の集まりとして「ささゆりカフェ」を開催しております。同じご苦労をされている方同士の意見交換などをさせていただいております。</p> <p>下段では、生活困窮者の家計改善支援として、社協さんには自立相談支援をさせていただいております。その世帯に入って、家計のアドバイスとしてレシートを保存しておいてもらうところから始まり、無駄な出費を抑えるよう指導してもらって、少しでも楽しく幸せに暮らしていただけるよう取り組みをしております。</p> <p>4番では困窮者の住宅確保を行っております。市営住宅への入居が主なところではありますが、条件さえクリアできるなら、困っている方を市営住宅に入ってもらって生活を安定させる支援をしております。</p> <p>緊急食糧支援では、「2日も何も食べていない」という人が時々窓口におみえになります。先ほどの社協さんのフードパントリーで集まった物のうちからご提供いただいたりしております。</p>

	<p>6 ページでは企業での自殺対策ですが、働き過ぎなども問題になっております。昨今は仕事は沢山あるが労働者が足りないという状態が起きております。ワークライフバランスが難しい状況ではあります。こういったところも商工課あたりが一生懸命PRしているところです。市役所におきましては総務課が中心となって、育児や介護の休暇や時短勤務などを進めております。まずは市が始めませんと一般の企業には広まりませんので、取り組んでいるところです。</p> <p>自殺については、このようなご報告となります。</p>
委員長	<p>今、事務局から自殺対策についての説明がありましたが、ご意見ご質問等ありましたらお願いいたします。</p>
委員	<p>プロファイリングについて、色々な分析が行われておりますが、これらは計画のどこに反映されていますか。</p> <p>事業の評価は「A」になっていますが実際には（自殺者が）無くならない。鬱の人が居られる時に病院などで診察を受けると病気が判るわけですが、その方に対してどうフォローしていくのか… というところの汲み取りをしていかないと無くなっていかないなと思う。</p>
事務局（課長）	<p>委員がおっしゃる通りで、プロファイルというのは恵那市の自殺要因や人数などを国が分析をして公表してくれるものですが、要因が分かってくることによってそこにピンポイントでいろいろな対策を充てていくという事になります。5年間で47人の報告がされています。直近では10人。10万人に対して21人という事で、全国は17人ですから恵那市は割合が高いという事になります。計画の目標は国の目標と同じ13人となっています。委員ご指摘の通りここに書いてある重点的な項目にしっかりと的を当てて対策をしていく必要があります。改めて考えていきたい。</p>
委員長	<p>その他には…。</p> <p>無いようですので次の項目に進めていきます。</p>
事務局)	<p>再犯防止推進計画に参ります</p> <p>こちらは、犯罪を犯して服役をして、刑を終えられた方の支援が再犯防止の課題となってくるものです。</p> <p>市内には保護司さんという方が居られてケアをしてくださっています。</p> <p>生活保護のほうでは1名の方が刑を終えられて再就職ができず生活保護を受けておられるとのことです。</p> <p>上3つは「D」の判定となっておりますが、そういった事案の該当がないという事があります。3番では新たに市営住宅に入られるという事が無かったという事ですが、7年度についてもこれらの支援の体制は利用できるようになっています。</p> <p>4番では、生活保護を受けておられる方は95世帯111人ありますが、再犯防止に関わる案件の方は3人おられます。高齢者の方や障がい者の方も何某からの犯罪を犯して刑務所に入られた方があります。こういった方はいわゆる自立支援という</p>

	<p>制度でもって福祉のほうでケアをしております。</p> <p>更生保護、再犯防止の広報となりますと総務課が役目を担っているところですが、やはりお仕事に就いていただかないと生活が立ち行きませんので、ビジネスサポート・就労支援を行っております。</p> <p>再犯防止の啓発という事で7月には「社会を明るくする運動」という取り組みを行っております。また、学校に対しては犯罪に直接繋がっていく薬物の乱用防止の啓発に力を入れて行っております。</p> <p>報告は以上です。</p>
委員長	<p>恵那市の再犯防止の取り組みということで12の事業について説明を受けました。</p> <p>これについて質疑等ありましたらご発言ください。</p> <p>再犯防止については、（支援が）なかなか難しい分野かと思えます。</p> <p>ご意見無ければ次へ進みたいと思えます。</p>

重層的支援体制整備事業実施計画進行管理について

事務局	<p>重層的支援体制整備事業につきましては、これまで各専門分野の障がい・高齢・子育てだけでは解決に導くことが難しい、複雑で複合的な課題の家族や個人の方をサポートする体制として作られた制度です。この支援をしていくために令和6年3月に計画を立てました。それまでに準備事業として令和3年から2年間実施し、令和6年4月から本格実施としております。</p> <p>今回初めて進行管理のご報告させていただきますのでよろしくお願いたします。</p> <p>重層的支援体制整備事業というのは、既存の障がい・高齢・子育ての包括的な支援体制を生かしつつ、プラスで整備事業を実施していくこととしております。</p> <p>資料の基本項目の中で網掛けをしてあるものが、新規の取り組みとして挙がってきたものです。</p> <p>恵那市のこの体制整備事業の作り方としましては、福祉企画室という部署で総合相談を開設しております。個人の方や家族の方から相談があった物のうち専門分野につながることができないもの、ケースのはざまや複合課題のケースについて重層的支援体制で支援をしていくという形になっています。軸で言いますと包括的相談事業の5番の福祉総合相談事業になります。</p> <p>取り扱っている件数は2月末現在で延べ447件あります。重複しているものも含まれます。平均1日に2～3件の相談を受けております。</p> <p>この中で、相談を受けて個別に生活困窮や障がい相談や高齢の分野に繋ぐことができるものについては、それぞれの担当に繋いでおります。</p> <p>専門分野だけでは解決できない相談を、多機関協働事業にあります1番の支援会議、2番の重層的支援会議に掛けさせていただきます。複合課題と複雑課題という事で支援会議に掛けさせていただいたケースが合計27件あります。</p> <p>重層的支援会議は、支援会議の中において引きこもりや引きこもりではないものの自ら社会資源に繋がることのできない方を社会に繋げていくものになりますが、今年5件の取り扱いがありました。合わせて32件を重層的支援体制整備事業とし</p>
-----	--

	<p>て今年度取り扱いをしました。</p> <p>重層的支援会議の中でアウトリーチ支援事業と参加支援事業の2事業があります。アウトリーチというものはなかなか家から出られない方がいらっしゃって、本人やご家族が困っておられて、家庭訪問を実施して支援するもので先ほどの5件のうち3件がこちらの対象となっています。</p> <p>参加支援事業はご自身で社会資源に繋がることができない方や就業は無理だとしてもご自身の得意な分野で社会資源につなげていくことをサポートする事業で、今年度2件の取り扱いをいたしました。</p> <p>その他の報告につきましては資料をご覧くださいませよう願います。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。重層的支援体制整備事業の実施計画について事務局より報告がありました。</p> <p>ご質疑などありましたら。</p>
委員	<p>先ほどの2件の方は何歳ぐらいの方でしょうか</p>
事務局	<p>参加支援事業の2名は20代と50代の方です。</p>
事務局（課長）	<p>この事業は今年度から始めてようやく1年が経とうとしています。県下では岐阜市・関市・大垣市・美濃加茂市・海津市が実施している。東濃では恵那市のみです。現在福祉のクライアントは8050のように高齢者が問題を抱えた、また息子さんなどがお仕事が見つからずに家に引きこもっておられる。更にはその息子さんのお子さんが不登校であったりとか、複雑に課題が絡み合っているケースがあります。障がいの担当でも解決できませんし、高齢の担当でも解決できないというような案件を拾い上げて、何とか地域が共に生きていけるような社会を作っていきたい… という目標で進めています。本当に手探りですが、400件余の相談があり、プランを作ったりとか、難しい問題を解きほぐしながら社会につなげていこう。というところをチャレンジしている。</p> <p>「重層」という言葉だけでも覚えていただければと思います。</p>
委員長	<p>前回のこの会議でも説明をいただき、8050問題、80代の親が面倒を見ることになったり、ダブルケアの問題があったり、育児と介護、色々なケースが出てきている。対策はいろいろと思案いただいていると思うが、対象者をどう見つけて対応していくか、なかなか引きこもりという情報は家族も出さないし、先ほどの自治会の問題などでの隣の人が誰なのかわからないなど、困っている人が把握がむずかしい状況で、恵那市は6年の4月から取り組みが1年経ったところで、順番に取り組んでもらっていますが、今後色々な問題が出てくると思いますので、対応をしていただければありがたい。</p> <p>何かご質問等は？</p> <p>無ければ次の議題へ進みます。</p>

4- (3) 地域福祉懇談会まとめの報告について

社会福祉協議会	<p>地域福祉懇談会について社協より説明します。</p> <p>冒頭、課長からご説明がありましたように令和6年度の地域福祉懇談会は、高齢部門が主になっている地域自治区ケア推進会議と一体的に行うという形で地域福祉懇談会を行いました。</p> <p>地域福祉活動計画の中の13地区の地区計画として今後の取り組みが地域によって選定されておりますが、その中の各項目について今年度は各地区で関係機関により話し合う項目を選定していただいてグループワークなどにより課題の抽出をしていただきました。また、地域福祉懇談会の後の振り返りと、地域の中で今後どのような取り組みを行っていくのか… というところについては、福祉合同会議という会議を新たに設定させていただいて、地域福祉懇談会が出た課題やニーズに対して、まずどこから取り組んでいけるのかというところを中心に話し合いをさせていただいております。</p> <p>右のページには、地域福祉懇談会の日程と参加人数が載っております。一部の地域では福祉合同会議のみの開催となっている地域もあります。</p> <p>次のページには各地区で話し合われた内容とその結果について記載してありますのでご確認をいただきたいと思っております。</p> <p>今年度話し合われた結果が令和7年度の各地域の事業の計画や取り組み、また既に令和6年度中に取り組んでいただいて、これを踏まえての令和7年度の取り組みになっている地区もありますのでご承知おきください。</p> <p>一番最後のページには、まとめという形で令和6年度の地域福祉懇談会の総評という形になっております。各地域で話し合う内容を選定していただいております。</p> <p>災害時の見守り、平時の見守り、移動や買い物の支援、地域での多世代交流など色々な話し合いをしていただいております。特に3つの点が内容を広くとらえた意見という事で挙げさせていただきました。</p> <p>1つ目は、人と人とのつながりについて… 自治会未加入の問題や人との関係性が薄くなってきているところから、改めてこの部分の取り組みが必要ではないか。</p> <p>2つ目が、世代を超えた交流機会の必要性… 先ほどの重層の取組みではありませんが、子どもだけの事業、高齢者だけの事業ではなく、多くの市民町民同士が顔見知りになる、顔の見える事業、交流の機会を作っていくことが大切ではないか。</p> <p>3つ目としては、個人情報の問題、プライバシーの問題をこういった事業の中でもしっかりと守る意識の高まりから、しっかりと配慮をしなければならないという意見が出てきたという事をご報告させていただきます。</p> <p>先ほどの地域福祉計画のところにも大きくそれぞれ関わってくるものだと感じております。</p> <p>来年度の地域福祉懇談会も改めて継続して行っていますが、この3点というものは広く地域活動を推進していく上で重要な視点であると感じておりますので、この視点をしっかりと盛り込んで、地域の計画の進行管理と地域福祉活動計画の推進を図っていきたいと思っております。</p> <p>簡単ですが報告とさせていただきます。</p>
---------	---

委員長	<p>ただいま、地域福祉懇談会の報告を受けました。ご質疑等ありませんか。無いようですので、以上で議事を終了とさせていただきます。ご審議ありがとうございました。以後は進行を事務局にお返しいたします。</p>
事務局	<p>大変ありがとうございました。5番のその他につきましては課長のほうから説明させていただきます。</p>

5 その他

事務局（課長）	<p>福祉センターの在り方検討についてです。先般2月に地域自治区会長会議にてご報告させていただいた資料になります。現在市内には、地域の福祉の拠点施設として4か所の福祉センターという建物がございす。それぞれ色々な機能を持った建物ですが、資料裏面のとおりに恵那・岩村・明智・串原にあり、特に恵那の福祉センターは鉄筋の3階建て昭和58年建設という事で40年経っております、大きな改修などもなく現在に至っております。これからの恵那市の人口減少であるとか、災害への備えとかを踏まえると、現状の建物や環境で十分な機能が果たせるかというところが非常に懸念されます。今年1年間、地域の方や福祉に関わる方々にお声を掛けさせていただいて、施設の在り方を検討したいと思っております。内容としては将来ビジョン、現状の利用を踏まえて今後どういうあり方や機能を持たせていくのかを決めていきたいと思っております。これら4施設すべての施設を恵那市社協さんに、指定管理という委託をさせていただいております。在り方を検討するという時期になってきたという事を紹介させていただいて、検討委員会を立ち上げた折には、この委員会の皆様にも何かしらのお願ひする機会もあるかと思ひます。改めて準備を進めてまいりますので、情報提供とさせていただきます。</p>
事務局	<p>事務局からは以上です。</p>
副委員長	<p>社会福祉法人としても、施設としても障がいの方が生活するグループホームとかいろいろなところが市内にたくさんあります。例えば全国で大規模な山火事が起きたりしてはいますが、施設に居る人たちは自分で避難することが難しい状況です。避難訓練などは何度も行っていますが、夜間など数人の夜勤者ではとても避難ができません。そういう場合は自治会などに応援をしていただかないととても避難ができません。計画の1項目に入れていただいて、我々のほかに、万年青苑さん、明日香苑さん・白鳩学園さんとかもそうですが、災害時の避難の支援について計画のどこかに盛り込んでいただけたらありがたいです。</p>

委員	<p>事業所の避難計画は義務化されているので、事業所で何らかの方法を作らないといけません。その計画の中で、実際に消防団にお願いするとか、自治会にお願いするとかしていかないと命は守れません。</p> <p>ご近所の方がみえればお願いをしておくとか、一緒に訓練をお願いするとかが大切。</p>
委員長	<p>我々の施設でも福祉避難所の指定をされており、災害時は避難者を受け入れることになっていますが、自分のところが被災することも当然あるわけですので、今言われたように市のほうに一報を入れて市から応援に来てもらうとか、消防団に来てもらうとかの体制を作っておくことが今後必要かと思います。</p>
委員	<p>他所の事例では、施設の夏祭りとか行事に近くの人を招きますので、その人たちに災害時の応援を依頼しているケースがあります。</p> <p>事業所の取り組みとしてぜひやられるとよいと思います。</p>

6 閉会

事務局	<p>今回色々なご意見をいただき誠にありがとうございました。議事録などに記載して共有したいと思います。</p> <p>また、来年度も事業の進行について管理をしていきますので、お力添えをいただきますようお願いいたします。</p>
副委員長	<p>(閉会挨拶)</p> <p>色々なご意見をいただいて、色々たくさん考えさせられることがありました。うちの施設にも、再犯をして何度も何度も放火を繰り返して服役された方があり、恵那市の出身で、知的障がいもあるという事で受け入れをしました。実家はあるのですが勘当したという事で関わってもらえなかった。長い間仕事をするという事をしてこなかったで、働くという意欲を削がれてしまって、なかなかできなかったですが、高齢のお母さんとも少しずつ関係が取れるようになって交流ができるようになり、少しずつ仕事に行くことができるようになりました。やっぱり家族の絆はすごいなあと思っております。自殺のこととか問題も色々ありますが、やっぱり家族がどう向き合ってもらえるかが重要だと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。これにて閉会とさせていただきます。</p>